令和３年度 埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム前期（オンライン）
中間レポート(2)

「自信に繋がる体験」

蓮見　桃子

８月から始まったOSGSプログラムも、早いものであと一回の授業を残すのみとなりました。プログラムが終わりに近づいていることを実感し、とても寂しく思います。最後まで悔いが残らないよう、多くのことを学び、成長できるよう頑張りたいです。
今回のレポートでは、プログラム後半に行った授業やセッションの内容、私が感じたことについてお伝えしたいと思います。

授業について

今回のOSGSプログラムは、「日米の新型コロナウイルスへの対応の違い」がテーマとなっており、最終回の授業で行われるFinal Presentationでは、一人一つのトピックについてプレゼンテーションを行います。そのため、授業ではスピーチをするときの注意事項やパワーポイントの作成方法など、効果的なプレゼンテーションの仕方を学びました。授業内では習った表現や比較の方法を実際に使ってみる機会がありました。その場でアウトプットをすることでより実践的な英語を身につけることができたと思います。

セッションについて

セッションの様子

このプログラムでは、Mott先生との授業以外にオハイオ州の方々とのセッションも行われました。ゲストスピーカーにフィンドレー市長やオハイオ州の医療従事者の方などをお招きし、私たちやフィンドレー大学の学生からの質問に答えていただきました。セッションでは、医療や政治、経済など様々な観点ら見た、オハイオ州における新型コロナウイルスの影響について知ることができました。しかしながら、セッションの中で日米の比較をすることで、日本や埼玉の新型コロナウイルスによる影響や現状についてももっと自ら伝えることができたのではないかと後悔しています。

最後に行ったセッションは私たちが発表する形式でした。実施したのは、県の様々な場所から中継をして、オハイオ州の方々に埼玉の魅力を伝えるというものです。近所の様子を紹介しながら質問に答えたり、クイズを出したりと、英語を使ってコミュニケーションをとることができました。特に印象的だったのは、道路にあるグリーンベルトについて質問された

ことです。これは通学路で子供たちが安全に通学できるよう整備されているものですが、そこに注目されるとは思っておらず驚きました。対話の中で、リアルタイムで繋がることの楽しさを改めて感じるとともに、普段暮らしている地域での「当たり前」や自分では気がつかなかった埼玉の魅力を再認識しました。このセッションを通して、ガイドブックには載っていない私たちならではの埼玉について発信することができました。

前回のレポートでオンライン授業特有の発言の難しさや自分の課題について触れましたが、授業の回を重ねるにつれて緊張がほぐれ、楽しみながら臨むことができるようになりました。英語力の不十分さを感じることもありますが、できなかったことは今後のモチベーションになります。また、授業やセッションで発言や対話ができたときには自信に繋がりました。英語での発信力を身につけるためには、まずは間違いを恐れずに発言してみることが大切なのだと実感しています。目前に迫った Final Presentation でも、今まで学んだことを生かして頑張りたいと思います。